



26 河井寛次郎 紫紅四耳壺

一点

昭和三年（一九二八） 陶磁
径三・七 高三八・五

27 河井寛次郎 窯変草花文合子

一点

昭和三年（一九二八） 陶磁
径一・〇 高一・四

民芸との出会いを通じて独特の力強い作風を開花させた河井寛次郎（一八九〇～一九六六）は、当初は技師を務めていた京都市陶磁器試験場における釉薬研究の成果を生かして、中国古陶磁に強い影響を受けた技巧的な作品を作っていた。大正後期はその多彩な釉薬表現に基づいた作品により、陶芸界の矚目すべき新星として注目を集めていた時期であった。しかし、絶賛の渦中でありながら目指すべき制作の方向性に悩んでいた河井は、柳宗悦や濱田庄司との親交を通じて、それまで芸術的な評価とは無縁と思われていた日本各地在来の手工芸の持つ可能性に目覚めることとなる。

「紫紅四耳壺」、「窯変草花文合子」はともに昭和三年の大札に因む作品で、前者は内大臣牧野伸顕より昭和天皇への献上、後者は昭和天皇より香淳皇后へ贈られたものである。これらはちょうど民芸運動に没頭して個展での作品発表を控えていた時期にあたり、四耳壺の鮮やかな紫紅斑や合子の天目釉に見られる釉技では高い完成度に到達する一方で、器形においては裝飾的な要素が最小限に抑えられている。のちの河井の骨太な作風へと変化する過渡期の、わずかな期間に垣間見られた静謐さをたたえた優品である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections